



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 11

2016.7.13

～AMAGRO 訪問～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅  
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

以前ファシリテーターとともに訪れた AMAGRO を、サンタリタ村の女性達と訪ねました。女性達がとても楽しみにしていた訪問で、子ども達の学校が休みに入りようやく実現しました。いつもワークショップに参加している女性達と子どもたちが加わり賑やかな道中となりました。魔法瓶にコーヒー、トルティージャを持参し、到着するまでの道のりの景色の良さに感激し、山道にバス酔いしながらも到着しました。前回のファシリテーターとの訪問の反省を活かして、今回は事前に AMAGRO のメンバーにサンタリタ村の女性達は生活改善を学び始めた段階でありコーヒー加工などの経済活動より AMAGRO がどのようにグループとして活動を始めたかのプロセスや、初期に実施したお金をかけない活動について重点的に話してもらうようお願いしていました。

AMAGRO のメンバーたちは当初生活改善活動を始めた際は、以前グループ活動に失敗したことから懐疑的であったこと、この5年間いつも全てが順調だったわけではなくうまくいかない日もあったことを、実感を込めて話してくれまし



た。グループ活動が進むためには責任感と忍耐、そして常に「出来る」と信じる前向きな姿勢が重要であること、そして腰痛にならないようシンの高さを変える、家畜を放し飼いにしないなど小さな改善の積み重ねが生活を変えたこと、今でも毎年活動計画を立て自己評価を行っていることも共有されました。女性達はうなずきなら真剣に聞いていました。説明の後には、野菜畑や有機肥料作り、メンバーの家・台所など女性達が関心を持っている健康・住居改善についての実際を見せてもらい、驚きの連続だったようです。サンタリタ村では今でも一部放牧を行っているため家畜の糞を使ったバイオガスを見ては、「私たちの村では糞はゴミでしかないのに！」と驚き、畑で出来た立派なレタスを昼食に出してもらい、「いつも買っている野菜を自分たちで作れる日が来たら…」と語り合っていました。またゴミひとつ落ちておらず、家畜が盗まれる心配のない平和なコミュニティを歩いて、「夢のよう」と表現していた女性もいました。



コミュニティの中を歩いた後は、皆で学んだことを話し合いました。AMAGRO からグループとしての連帯を学んだとともに、個人だけではなくコミュニティとしての利益を考え始めるきっかけとなったようです。また、今まで生活改善のワークショップを何度も受けてきたものの雲をつかむようだった思いの女性も、AMAGRO を見て実際の経験を聞くことでようやく生活改善が何なのか理解出来たと話していました。また、「AMAGRO は私達が持っていないものをたくさん持っているけど、私たちは AMAGRO が持っていないものを持っている」という発言もあり、サンタリタ村で地面に落ち腐っていくマンゴの活用なども話されました。サンタリタ村の女性は農家ではありませんが、同じようにコミュニティで家族を持ちながら毎日を暮らしている AMAGRO のメンバーの言葉だからこそ彼女たちの機微に触れ、心に響くものがあったようです。

AMAGRO 訪問を通じて高まっている女性達のモチベーションを実際のサンタリタ村での活動に繋げるべく、プロジェクトでは支援を続けます。

